

「事業名:災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」 2019年度補助事業の実績・成果

長崎大学 連携市町村:川内村、富岡町、大熊町

現地拠点:双葉郡川内村上川内内字小山平15-1/富岡町大字本岡字王塚622-1

事業のポイント

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町や大熊町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会や国際原子力機関といった国際機関と連携して世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築します。

今年度の活動実績

1. 川内村、富岡町に加えて、住民の帰還が始まった大熊町への復興支援を開始しました。
2. 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学と連携して福島県下の医療系大学生を対象とした放射線についての集中セミナーを川内村で計画しました。計画していたセミナーは新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ観点から中止せざるを得ませんでしたでしたが、今後このようなセミナーを行うことで、福島県の将来を担う若い世代が放射線リスクについての理解を浜通りにおいて深めることが可能になると考えられます。
3. 世界各国の災害・被ばく医療科学の若手研究者を対象とした国際セミナーを川内村と富岡町で計画しました。計画していたセミナーは、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ観点から中止せざるを得ませんでしたでしたが、今後も世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する取り組みを通じて、復興知を学ぶ人材の交流を浜通りで深めることができると考えられます。

今年度の成果

上記の取り組みを通じて浜通りの復興を加速させ、さらに世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築する体制を整えました。

